皮膚科領域におけるCefepimeの臨床的検討

仲田 龍一・比留間政太郎・川田 暁・石橋 明・久木田 淳
防衛医科大学校皮膚科学教室*

皮膚科領域の感染症患者11例においてcefepimeの臨床的検討を行った。疾患の内訳は蜂窩織炎2例，丹毒1例，よう1例，二次感染7例の計11例であった。臨床効果は，著効5例，有効3例，無効2例，判定不能1例で有効率80％であった。1例に発疹が認められたが軽度であった。

Key words : Cefepime，注射用セフェム剤，皮膚科感染症

Cefepimeはブリストル・マイヤーズ研究所株式会社東京研究所において開発された新しい注射用セフェム系抗生物質であり，グラム陽性菌，陰性菌に対し広範な抗菌スペクトルを有する[1]。本剤は点滴静注により高い血中濃度が得られ，皮膚組織への移行も良好である[1]。今回，本剤について皮膚科領域での臨床的検討を行う機会を得たのでその成績を以下に報告する。

対象患者は平成元年2月から9月の間に入院した11例を対象とした。年齢は16歳から92歳，性別は男性6例，女性5例であった。疾患の内訳は蜂窩織炎2例，丹毒1例，よう1例，二次感染7例であった。投与方法は1回1.0 gまたは2.0 gを1日2回点滴静注し，投与期間は2～11日間であった。

臨床効果は自他覚所見の推移，検査所見の変化，細菌学的効果より総合的に判定し，著効，有効，やや有効，無効，判定不能の5段階に判定した。細菌学的効果は起炎菌の推移により，消失，減少または一部消失，菌交代，不変，不明の5段階に判定した。副作用については，本剤によると思われるアレルギー症状に注意するとともに，治療に伴う末梢血液像，血小板，肝機能および腎機能について検討した。

Cefepimeの臨床成績一覧表をTable 1に示した。臨床効果は蜂窩織炎2例では著効，丹毒，よう各1例でも共に著効，二次感染7例では著効1例，有効3例，無効2例，判定不能1例であった。以上，11例の皮膚科領域感染症に対して本剤の投与を行った結果，著効5例，有効3例，無効2例，判定不能1例で有効率(著効＋有効/症例数－判定不能) 80.0％であった。

細菌学的効果については，11症例の内9例に起炎菌が検出され，単独感染例では *Staphylococcus aureus* が4例と最も多く，*Streptococcus dysgalactiae* 1例，*Staphylococcus* sp. 1例の計6例であり，消失2例，菌交代2例，不変1例，不明1例であった。混合感染例では Streptococcus sanguis II，*Streptococcus salivarius* の1例では消失，*S. aureus*，*Streptococcus pyogenes* の1例，*S. aureus*，*Pseudomonas aeruginosa* の1例では共に一部消失と判定された。

副作用は1例に発疹が認められたが，軽度であり薬剤投与中止2日後に消失した。

皮膚科領域では *S. aureus* 等のグラム陽性菌による感染症が多いため，これらに抗菌力を有するセフェム系抗生物質が使用される機会が多い。本剤はβ-lactamaseに安定であり，*S. aureus* から *P. aeruginosa* にわたる広範な抗菌スペクトルを有する[1]。今回，我々が検討した11例の臨床効果は有効率80.0％とほぼ満足できる成績が得られた。このうち無効例は2例(症例5，9)であり，症例5は悪化中の下腿潰瘍の二次感染で，本剤1.0 gを1日2回投与し，7日後では圧痛の消退，WBCの改善がみられたが，CRPの上昇，潰瘍の状態が不変であったため無効と判定した。症例9は急激悪化中のヘイリー・ヘイリー病の二次感染で，本剤1.0 gを1日2回投与したが，4日後で高熱持続のため無効と判定した。

細菌学的効果については単独感染6例では，消失2例，菌交代2例，不変1例，不明1例であった。このうち不変と判定された1例（症例4）は，methicillin-resistant *S. aureus*（MRSA）であり，本剤のMICは100 μg/mlであった。混合感染3例では1例（症例3）は消失，2例（症例8，9）では一部消失と判定された症例8は，*S. pyogenes* が消失し，存続した *S. aureus* に対する本剤のMICは1.56 μg/mlであった。症例9については *P. aeruginosa* が消失し，*S. aureus* につい

*〒359 所沢市並木3-2

Table 1. Clinical summary of cefepime

Case no.	Sex・Age (y)	Diagnosis	Daily dose (g×times)	Duration (days)	Total dose (g)	Isolated organisms: Species	Isolated organisms: MIC 10⁶cells/ml (μg/ml)	Bacteriological effect	Clinical efficacy	Side-effects
1	F・53	phlegmon	1×2	5	10	(−)		unknown	excellent	—
2	F・59	phlegmon	1×2	4.5	9	*S. aureus* (+)→(−)	1.56	eradicated	excellent	—
3	F・37	erysipelas	1×2	6.5	13	S. sanguis II (+)→(−) *S. salivarius* (+)→(−)	0.025 0.05	eradicated	excellent	—
4	M・16	carbuncle	1×2	2.5	5	*S. aureus* (MRSA) (++)→(++)	100	unchanged	excellent	eruption
5	M・57	secondary infection	1×2	7	14	(−)		unknown	poor	—
6	M・64	secondary infection	1×2	6	12	*Staphylococcus* sp. (++)→(−)	NT	eradicated	excellent	—
7	M・63	secondary infection	2×2	6.5	26	*S. aureus* (+++) →*P. aeruginosa* (++)	1.56 1.56	replaced	good	—
8	F・77	secondary infection	1×2	5	10	*S. aureus* (+)→(+) *S. pyogenes* (+++)→(−)	1.56 0.025	partially eradicated	good	—
9	M・64	secondary infection	1×2	5	10	*S. aureus* (+++)→(a few) *P. aeruginosa* (+++)→(−)	NT NT	partially eradicated	poor	—
10	M・22	secondary infection	1×2	11	22	*S. aureus* (++) →*S. epidermidis* (a few)	NT	replaced	good	—
11	F・92	secondary infection	1×2	2	4	*S. dysgalactiae* (+++)→NT	0.1	unknown	unknown	—

MRSA : methicillin-resistant *S.aureus*　　NT : not tested

ては消失はしなかったものの菌量の減少が認められた。

副作用に関しては，1例（症例4）に発疹が認められたが，軽度であった。

以上より本剤は，皮膚科領域感染症に対して，その有用性が示唆された。

文　献

1）第38回日本化学療法学会総会，新薬シンポジウム。Cefepime，長崎，1990

CEFEPIME IN SKIN INFECTION

Ryuichi Nakata, Masataro Hiruma, Akira Kawada, Akira Ishibashi,
Atsushi Kukita
Department of Dermatology, National Defense Medical College,
3-2, Namiki, Tokorozawa 359, Japan

We conducted a clinical study on the new antimicrobial agent, cefepime.

Clinical evaluation was carried out in 11 patients (phlegmon 2 cases, erysipelas 1, carbuncle 1, secondary infection 7). Response was excellent in 5, good in 3, poor in 2, and unknown in 1 case with an overall efficacy rate of 80.0%. As to side effects of cefepime, mild eruption was noted in 1 case.